八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
２年生　第20号
2024年３月18日
編集・文責 吉成正士

2年生学年全体人権学習(3月13日)

先日，２年生最後の学年全体人権学習を行いました。テーマは，「水平社とハンセン病と自分・家族を語る～映像「父が隠した“家族”」を通して～」でした。

３学期に学習してきた「日本の人権獲得の歴史～近代～」に登場する水平社について。また，先月ＮＨＫで放映された「Dearにっぽん『父が隠した“家族”』に登場するハンセン病について。そしてそこに描かれる家族を通して，それぞれの家族を語り合おうという時間でした。皆さんの内に秘めていた思いが伝わってきて，私にとっても胸が熱くなる時間となりました。

今回も，皆さんが書いてきてくれた感想を中心にふりかえり，この学びをさらに深められたらと思います。

皆さんへの発問は次の４つでした。

1．部落であることを恥ずべきこととして生きることから立ち上がった水平社にかかわる人々の生き様を，今の自分と照らし合わせてどう思いますか。
2．映像「父が隠した“家族”」を視聴して，どんな場面や言葉が印象に残りましたか。何を感じましたか。
3．本当に恥ずべきこととは何でしょうか。西光万吉さんや水平社の人々，木村真三さんや元ハンセン病患者の生き方を通して，あなた自身やあなたの家族について語ってみましょう。
4．これまでの発問をふまえて聞きます。修学旅行で何を得ましたか。この1年間の自分はどうでしたか。あなたの夢は何ですか。

一人きりになってもらいたくない

■自分の周りの人には，ハンセン病を患っている人はいないけど，「父が隠した家族」の動画を観たら，とてもおかしいと思いました。どうしてたった一人の叔父さんのことを隠してしまうのかが，僕には分かりません。自分の家族がもしハンセン病を患っていたら，僕はありのままのことを伝えると思います。結婚や差別をされてもいいけど，自分のことを大切にしてくれた家族のことを，僕は隠したりしたくないです。その理由は，自分が家族のことを見捨てているという思いが出てくるからです。今まで大切に育ててきてくれた家族に，一人きりになってもらいたくないという思いがあるからです。「父が隠した家族」の動画は，仕方がないことかもしれないけど，僕から見たら，とても不思議な気持ちになりました。　　３組YO

あなたと同じように感じたから，木村さんは時を超えて，今，家族のことを明らかにしたのではないでしょうか。お父さんが越えられなかった壁を，代わって木村さんは越えようとしたのだと思います。それはお兄さんもそうだし，お母さんもそうです。ご近所の方々もそうです。みんなが一緒になって，お父さんが越えられずに苦しんだ壁を，今，共に越えようとしている場面を，皆さんは観たのだと思います。

時代だけのせいにはできませんが，国がハンセン病政策の過ちを認めて謝罪をし，全国的な啓発活動を進めてきた結果かもしれません。でも国の方向性も大切ですが，やはり市民レベルで，こういったカミングアウトが進んでいくことが，本当の解決につながっていくのだと思います。全国のハンセン病療養所の納骨堂には，いまだ故郷に帰れない遺骨が，何千もあります。そのすべてが故郷に帰れるまで，ハンセン病問題の完全解決とはならないのだと思います。皆さんも一度，ハンセン病療養所に出向いてみませんか。理屈ではなくて感性で，いろんな学びが得られると思いますよ。

だけど，なんかよかった

■僕は今回の人権学習を受けて，発表はできなかったけど，なんかよかったです。昔はハンセン病ってだけで差別とかをされているのを，自分は何で病気ってだけなのにそんなんするんだろうと，いつも思っていました。

部落出身の人やって，そこで生まれたからって差別を受けたりするのはおかしいと思います。そこの地域でただ生まれて，普通に生活をしているのに，部落出身てだけで嫌かもしれないのに，差別までされたらもっと嫌になり

ます。差別をなくしたいと思う人はいっぱいいると思いますが，なくならないのは，いつの時代でも差別をする人がいるからなので，その人たちは何故やめないのか知りたいです。　　6組OK

直接聞くといいですよ。「なんで？」って。もしかするとその人なりの理由があるのかもしれません。そのうえで自分はどう考えるのか，ではないでしょうか。

よくやる過ちが，本当のことをよく知りもしないのに差別をしたり，本当は差別している対象が個人なのに，部落全体を，またはハンセン病患者全体を差別するということです。ここは，よく聞いて見極める力をつけていないと，自分もその人の意見に安易に同調して，いつの間にか自分も差別的なことを思ったり，言ったりしてしまうかもしれません。

いつまでも純粋で素直な思いを貫けるかどうかは，本当に大切なことです。でも，ぜひ貫ける，「芯」のある人間でいてほしいなと思います。そして，差別を正していける側の人間でいてほしいなと思います。差別をする人は，いろんな理由を並べ立てても，結局たいした根拠もなく，感情だけで差別することが多いものです。そんな人に対抗するには，あなた自身の静かな熱を，揺るがない「芯」を，じんわりと伝え続けるしかありません。是非そんな人間でいてください。

深く学べば，他の差別も見えてくる

■同じ班の子に，「ハンセン病で起こった差別はコロナのときにも同じように起こってしまった」と言っていた子がいました。私はハンセン病を習っているときは，遠い昔のことのように感じていたけど，その言葉ですごく身近なものに感じました。ハンセン病とはまた種類の違う差別が起きていて，私たちはハンセン病で起こったことから何も学べていないんだなと思いました。動画で言っていた，「知らない，学んでいないから，間違いに気づかない」という言葉の意味をやっと理解できたように感じました。吉成先生の言っていた通り，燃え尽きる学習じゃなくて，燃やし続けられる・知識を入れ続ける人権学習をしていきたいと思いました。

「家族のことについて語る」という題のところで，私は何を言ったらいいか分からず，何も発表できませんでした。でも両親の結婚のことを言っている人や，吉成先生の話から，部落差別が本当にあったんだということをあらためて実感しました。自分自身は部落のことを悪く思わないけど，周りに何か言われるんじゃないかと思っている人もいるだろうし，難しい問題だなと思った。　6組DH

一つのことを深く学んでいけば，それは他のことにも重ねて見ることができるものです。でも逆に，一つのことも深められていなければ，他のこととのつながりに気づくこともありません。今回，そのことに気づけたようで良かったです。

差別をする人は，自分に自信がないから，他人を差別でもしないと生きていけないのではないかと思います。なんか，悲しい生き方です。あなたはそんなみじめな生き方をしたいですか？ということです。これから先，周りで差別的なことを言う人は出てくるかもしれません。でもそのときこそ，自分がどう対応するかが問われます。それに安易に同調するのか，それとも自分の考えをちゃんと主張するのか。主張することによって，仲間外れになるかもしれません。独りぼっちになるかもしれません。それが嫌で同調しても，誰もあなたを咎（とが）める人はいないでしょう。でもそれは，自分に嘘をつくことになるかもしれません。私が子どものころ，よく言われたものです。「誰も見てなくても，お天道さんが見てるよ」と。要は，自分に嘘をつかず，自分に納得のいく生き方ができているかどうかです。自分がどう生きるかです。

私たちと同じ一人の人間

■「父が隠した“家族”」を観て，周りの環境や空気に流されて，自分も差別してしまうということがないようにしたいと思った。また，自分に知識がなくて，知らない間に人を傷つけるということは，絶対にあってはならないと思う。そのためにもハンセン病や部落について正しい知識を身につけ，自分がまだ知らない差別などについても知ろうという姿勢が大事だと思う。正しい知識がなければ，自分が善意で言ったことが，相手に深い傷を負わせてしまうかもしれない。吉成先生の父親のように，「部落の人とだけは結婚してはいけない」と思っている人が，世の中にはたくさんいると思う。また，そう思ってはいけないと思いながらも，言ってしまう人もいる。私はそう言われたときに，「部落だとしても，そうでなくても，関係ない。私たちと同じ一人の人間で恥ずかしがるものではない」と言えるようになりたい。そして，今まで学んできたことを忘れず，胸に留めて生活していきたい。　　1組KM

ならば，しっかり人権学習をしないと！ですね。

「無知が差別を生む」

でも，どこまで行ってもすべてを知ることはできません。人間が完成することはありません。ということは，どうしてもどこかで差別をしてしまうかもしれないということです。あなたも，私も。ならば，どこかで差別してしまっている自分を認め，謙虚に学び続け，少しでも差別しない人間に近づくこと以外にないように思います。つまり，自ら学ぶ続けるということです。皆さんも次年度，「人権を語り合う中学生集会」や「人権こども塾」に来てみませんか？

（第21号につづく）